

とやま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

富山県西部森林組合 (南砺市) 業務部企画課 川西 幸子さん



今回ご紹介する方は、富山県西部森林組合の本所に勤務しておられる川西幸子さんです。

○現在の業務内容

富山県西部森林組合で実施される森林整備事業関係補助金の申請事務を一手に担っておられます。具体的には、造林関係事業を始め、路網整備推進事業、県単独森林整備事業、水と緑の森づくり事業などで、申請件数は年間百件近くにのぼります。

○森林組合に勤務するきっかけ

以前務めていた商工会で同森林組合からの

事務委託を担当されており、各種保険や簿記に精通している川西さんを見込んで、同組合の事務をやってみないかと誘われたのがきっかけだそうです。

○業務内容が総務担当から補助金関係事務に

近年、森林組合は、事務処理の仕組みを更し、今まで複数担当者が各々作成していた補助金申請書類を、一担当が一括作成し合理化を図りました。川西さんは、総務を担当されていましたが、昨年から現在の業務を担当されることになりました。

中でも造林関係事業の申請書類は、面積データや伐採率の計算方法をはじめ、森林経営計画など森林計画制度にも精通していなければ作成が困難な業務です。

就業当初は、山や森林に関する知識が乏しい状態で、現場も見ることが無く、保育がどんな作業なのかもわからないまま書類を作成することに戸惑いもあったそうです。そこで、森林組合内部の研修に出席したり、県や森林組合の造林担当者に質問を重ねたりして、対象事業について知識の取得や理解に努めてこられました。

○業務を円滑に進めるための工夫

現場の完成が一時期に集中するため、森林組合の各担当職員と連絡を密に取り、現場が

完成次第速やかにデータを共有する、仕事はためずに素早く処理するなど、仕事の平準化を図り、事務の遅延防止に努めておられます。

おかげで県センターに提出される書類は矛盾が無く、必要なものが全て揃っており、不明な点があっても素早く対応されます。県や市町村担当者からは、書類の精度が上がった、処理が早くなった、と高い評価を受けておられます。

○総務的な事務との違い

経理は切れ目なく流れていくのに対し、申請事務は完結するので、達成感や充実感があってやりがいを感じておられるそうです。

○今後の抱負について

誰がやっても同じレベルのものが作成出来るマニュアルの作成に取り組みたいそうです。また、「航測レーザ測量などのICTの活用によって電子化が進めば、書類づくりも省力化でき、正確化が進むのでは」と期待しておられ、もっと林業の知識を学んで日々の業務に役立てたい、もっと良くしていきたいという思いが伝わってきました。

今後ますますのご活躍を祈念いたします。

文責 砺波農林振興センター森林整備課林政・普及班